



国際土壌年特集

「なぜ土壌物理の道に足を踏み入れたのか？」

土壌物理学会事務局

今年 2015 年は国際土壌年です。

2013 年 12 月に行われた国際連合総会において、12 月 5 日を世界土壌デー、2015 年を国際土壌年とする決議文が国連食糧農業機関 (FAO) に事務局を置く地球土壌パートナーシップ (GSP) 主導のもと採択されました (<http://www.fao.org/globalsoilpartnership/iys-2015/en/>)。決議文には「土壌は農業開発、生態系の基本的機能および食糧安全保障の基盤であることから、地球上の生命を維持する要である。土壌には、経済成長、生物多様性、持続可能な農業と食糧の安全保障、貧困撲滅、女性の地位向上、気候変動への対応、水利用の改善など、様々な問題を解決する可能性が秘められている。この土壌を正しく認識し、適切に管理し、守っていくことこそが“我々の望む未来”の実現に大きく貢献する。限りある土壌資源を見つめ直し、その持続性を増進すること。それが今まさに求められている。国際土壌年と世界土壌デーが同時に宣言されたのは、前例のないことであり、その意味を心にとどめ、全加盟国も、国連機関も国際組織も地域機関も、市民組織も非政府組織も、そしてあなた自身でも、その日その年を慶祝しましょう。その慶祝に、自発的に貢献しましょう。」と記されており (<http://pedologyjp.sakura.ne.jp/iys2015/iys>)、土壌の担う役割の社会的認識の向上や土壌資源の持続的管理や保護のための行動の促進が私たち一人一人に求められています。

そこで、土壌物理学会でも国際土壌年の応援企画として土壌の物理性 (2015 年発刊の 130 号と 131 号) の表紙に国際土壌年のロゴを掲載するとともに、小特集を組むことにしました。とはいえ肩肘の張った特集ではなく、この分野に入り込んだ“本当の”理由を研究者の方々に明かしていただきます。今号では、土壌物理の分野でも活躍顕著な 4 名の会員からのエピソードを紹介しました。こうしたエピソードが、若い研究者や学生会員の励みや今後の土壌との関わりに対するモチベーションへの刺激となり、今後の土壌物理学会の活性化にもつながることを期待しています。また、会員の皆さんからの 131 号への投稿もお待ちしています。



2015
国際土壌年